

平成 31 年 3 月 5 日  
愛 媛 大 学

## 小中学生が独自の研究成果の発表を行います！

～ジュニアドクター育成塾事業 最終成果発表会を開催します～

このたび、国立研究開発法人科学技術振興機構ジュニアドクター育成塾事業として、2 年目受講生 13 人（中学生 8 人小学生 5 人）が、「アリの視覚やメタン発酵菌の探索」「未解決の素数の一般法則」「自動で履ける靴」など、今年度それぞれが行った多様な研究について、口頭発表を行います。

いくつかの発表は、日本生物教育学会での発表や岡山県立倉敷天城中学校でも発表された優れた成果です。また、当日は高校生の人材育成事業グローバルサイエンスキャンパス事業からも高校 1 年生 2 人が招待講演の予定です。

愛媛から世界に羽ばたく次代の人材育成の成果であり、子どもたちが新たな翼を得て高く飛び立つ様子をぜひお伝えください。

つきましては、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

### 記

日 時:平成 31 年 3 月 10 日(日)8 時 30 分～12 時 30 分

場 所:愛媛大学南加記念ホール

参加者:ジュニアドクター育成塾受講生 計 28 人(発表者 12 人聴講のみ 16 人)

駐車場:無

※報道機関の方で、車で取材に来られる場合は、正門警備員室で会社名等をご記入の上、来客用駐車場を利用してください。

#### ■プロジェクト実施の背景

\* プロジェクトの概要及び取組状況等の詳細は、添付資料をご参照ください。

※送付資料 4 枚(本紙を含む)

本件に関する問い合わせ先

教育学部理科教育専修

准教授 大橋 淳史

TEL:089-927-9434

Mail:aohashi@ed.ehime-u.ac.jp

# 最終成果発表会

2019年3月10日(日)

8:30 開会式 10分

8:40 研究発表開始

発表 7分/人 質問 3分/人

第1部 8:40~9:30

愛光学園2年男子「未解決の素数の一般法則の発見と証明」

湯山小学校6年男子「プラナリアの頭を二つ以上に分裂した時、体はどの頭の指示に従って動くのか」

附属中学校2年男子「イモリは体の色を変えるのか？どの感覚で色を認識することができるのか？」

伊予市立港南中学校3年男子「ロボットの複雑操縦プログラム」

椿中学校2年男子「身近な食品による抗菌作用」

休憩 10分

第2部 9:40~10:30

附属小学校6年女子「アリに色覚はあるのか」

附属小学校6年男子「メタン発酵菌の働き」

新居浜市立角野中学校1年女子「SDGsにおける第4テーマ「質の高い教育をみんなに」実現するための方法に関する研究」

東中学校1年男子「室内掃除ロボットを作成する」

潮見小学校6年「植物成長時の淡水に住む微生物の影響」

休憩 10分

第3部 10:40~11:40

済美平成中等教育学校2年男子「自動で履ける靴の研究」

今治市立立花中学校1年男子「光の種類による植物の成長差と照射の時間帯による成長差の研究」

今治市立乃万中学校1年女子「発泡入浴剤の泡ととけ方の研究」

今治西高等学校1年女子(eGS) 「生物の細胞に対するカフェインの影響」 発表7分 質問5分

附属高等学校1年女子(eGS) 「野外の酢酸菌とお酢屋の酢酸菌の比較」 発表7分 質問5分

休憩 10分

11:50 表彰式 発表者への盾の授与, 最優秀者へのトロフィー授与

12:00 記念撮影と抽選会

12:30 閉会

スケジュールは現段階の予定です。若干の前後が起こる可能性があります。

# 国立研究開発法人科学技術振興機構ジュニアドクター育成塾事業の概要

実施機関：愛媛大学をはじめとして、東京大学、筑波大など、全国で 19 事業体

対象年齢：小学校 5 年生～中学校 3 年生

対象人数：42 名

実施対象：次代の日本を担う理系人材

支援事業体：国立研究開発法人科学技術振興機構

支援期間：5 ヶ年(2017 年～2021 年)

支援金額：1000 万円／年

## ジュニアドクター育成塾とは

文部科学省がはじめて小学生まで対象を広げた人材育成事業です。

小学校は全科教育(すべての教科を等しく学ぶ)が重要ですので、特定の教科に対する支援に対して文部科学省は長い間消極的でした。しかしながら、近年の科学研究能力の著しい低下を受け、小学校まで対象を拡大した研究人材育成事業を企画しました。それが、このジュニアドクター育成塾事業です。科学技術イノベーションを牽引することの期待できる突出した才能を有する小中学生を発掘し、その能力をさらに伸ばすことのできる体系的育成プランの開発を目的とした事業です。

## 本学の特徴

### 1 多彩な講師陣によって幅広い興味関心を育てる

本学の特徴は、特定の分野に偏らず、全国から多彩な講師陣を参集している点です。

才能ある子どもたちも、たまたま最初に目についた分野に固執しがちです。しかしながら、自らの能力を本当の意味で発揮するためには、目先の興味や学問の垣根にとらわれない広い視野と興味関心を養うことが必要です。本プログラムでは、全国の企業・大学の支援を受け、子どもたちが幅広く学ぶ環境を整え、子どもたちの新たな可能性を拓くことを目標としています。

第 1 テーマは化学発光(化学, 愛媛大学), 第 2 テーマはグラフィックレコーディング(UI/UX デザイン, DeNA), 第 3 テーマはテキストマイニング(プログラミング, プラスアルファ・コンサルティング), 第 4 テーマは製剤(薬学, 松山大学), 第 5 テーマは 2 足歩行ロボット(工学, 岡山理科大学), 第 6 テーマは貴金属リサイクル(環境, 田中貴金属工業), 第 7 テーマは色と光(脳科学, 東北大学), 以上の実施予定です。

### 2 能力を総合的に伸長させる

本学の特徴は、多分野を横断的に活躍できる人材を育成することです。

人材育成事業では「得意なこと(のみを)伸ばす」ことに固執しがちですが、社会に出れば「これしかで

きない」ではやってはいけません。そして、かならず訪れる「壁にぶつかった」ときに、新たな道を切り拓くため、自分の得意なことと他のこととのつながりを知り、自分の社会での位置を確認することが重要です。本プログラムでは、子どもたちの才能を発揮できる環境を構築するために、一点突破ではなく総合的な能力育成を目指しています。

### 3 ネット受講で時間的・距離的課題を克服

本学の特徴は、YouTube のライブストリーミング配信をはじめとして、インターネットを通じた教育方法を活用していることです。

YouTube は話題の VR(バーチャルリアリティ)配信を取り入れ、周りを見回して他の受講生が何をしているのかを見ることも可能で、ネットでも臨場感をもって参加できます。やる気はあるけれども参加が難しいという課題になりやすい、時間的な制約、地理的な制約を超えて学習することが可能です。

### 4 えひめこども科学新聞の作成をつうじて学びを深める

本学の特徴は、学んだ内容について、子どもたちが独自の紙面を作成することです。

たのしかった、おもしろかったで終わってしまっただけでは、体験したことが身につきません。そこで、内容を振り返って整理し、理解を深めるための新聞制作を行っています。この紙面を、えひめこども科学新聞と名付けており、SNS などを通じて公開しています。

### 5 積極的な情報公開

本学の特徴は、実施した内容を積極的に公開している点です。

これまでの人材育成事業は参加者以外には何をしているのかなどをうかがい知ることができないため、国民が人材育成事業の存在すら知らない状況が続いています。国家政策として税金を投入する以上、その内容を国民に周知し、国民からの支持が得られなければ事業を継続することはできません。そこで、本事業では、さまざまな媒体を通じて、活動内容を積極的に公開しています。

基幹サイト

<http://junior-doctor.jp/>

フェイスブック

<https://m.facebook.com/scienceinnovationehime/>

note

<https://note.mu/jrdoctor>

インスタ

<https://www.instagram.com/sciinvehime/?hl=ja>

ツイッター

<https://mobile.twitter.com/home>

ニコニコ動画チャンネル

<http://sp.ch.nicovideo.jp/ScienceInnovationEhime>